

ご飯について

- *フードの量を増やしすぎると お腹をこわすこともあります。
- *初めてのフードや、おやつを急に沢山食べると下痢になったり吐いたりすることがあります。
- *フードの変更をする時には、食べているフードに変更したいフードを少しずつ混ぜていきます。
混ぜる量を増やすペースは便の具合を見ながら慎重に進めて下さい。
- *猫は食べ物の好みが変わりやすい動物です。急に食べなくなることもあります。
その場合、他のフードに変えていったり缶詰やふりかけ・パウチのウェットフードを少し混ぜてみてください。
- *お水の飲む量に気をつけてください。飲まない場合は病気の時もあるので病院に連れて行ってください。
- *下痢になった場合は、まず食事量・水分量を絶食か、それに近いほど減らす方が、胃腸の負担が少なく早く治ります。ウンチが固まり始めたら、ほんの少量からフードを食べさせてください。
ウンチの具合をみながら徐々に増やして行って下さい。
決していきなり増やさないよう気をつけて下さい。
それでも治らない時や水状の下痢になれば、早期に受診してください。

トイレについて

- *当猫舎ではシステムトイレを使用しデオトイレの消臭抗菌サンドの紙製の小石状の物と鋳物製の小さな棒状の物を砂として使用しています。
仔猫時は砂をおもちゃにすることがあるので、飲み込んだ時のため紙製にしています。
様子を見ながら鋳物にしていくようにしています。
この砂はオシッコで固まらなく撥水加工されているので、システムトイレのザルのトイレを通り下の受け皿に流れ落ちます。この受け皿のほうにペットシーツをセットして使います。
固まる砂よりも臭いが圧倒的に少なく、ペットシーツの交換時にオシッコの量や色を確認出来るので重宝しますが、砂の値段が少し高いのとペットシーツを買う必要があるのが、お困りの場合は、固まる砂に変更してください。
- *トイレ掃除の最後には市販の猫用トイレの除菌・消臭スプレーをかけています。その後はバイオウィルクリアー(ウィルスから真菌までも除菌でき、優れた消臭効果が得られる舐めても大丈夫なスプレー)で除菌しています。

予防接種や投薬治療

- *ワクチン接種は生後 2 か月、3 ヶ月の 2 回、その後は年 1 回の予防接種が必要ですが接種後に熱が出ることがあります。たいがいの場合は静かに寝かせてあげると 1 日たてばおさまります。心配な場合は万が一に備えて午前診察に接種し、その後体調が急変したら午後診察にいけるよう、または翌日の午前診察に行けるようにスケジュール調整をしておくで安心です。
- *投薬の場合は、投薬用のおやつにくるませて食べさせると楽です。それでも吐き出す場合はおでこの皮を摘み引き上げるようにすると、お口を開けやすくなります。
- *ノミやダニ、フィラリアや寄生虫駆除は首から背中に液状のお薬があります。
1 ヶ月に 1 回の頻度で投薬します。
獣医さんで購入出来ますが種類が多く値段も様々ですので、ご確認ください。
またペットお薬でネット検索すれば、サイトがいくつか出てきます。少し安く購入出来ます。

家の中の危険

誤飲

ひも・毛糸・アクセサリー・針・短くなった鉛筆・ボタン電池・ビニール袋など、遊んでいるうちに食べてしまうことも。

感電、火災

電源コード・充電器・電話機やポットなどの家電・コンセントなどで遊んで感電したり、オシッコをかけてしまったりでトラッキングが発生したりします。

溺れる

お風呂の水がたまるのを見ていて。洗濯機で寝ていて。トイレをのぞいていて。など、水に興味をもち遊んでいるうちに落ちてパニックになり溺れることがあります。

転落・脱走

ベランダや換気窓などからの転落、来客時の玄関ドアからの脱走が多いです。

中毒

食べ物以外にも、花・観葉植物・人間の薬・タバコ・洗剤・殺虫剤・漂白剤
ヘアースプレー・アロマオイルも注意です。

事故

家具と家具の隙間や引出しなど入り込み出られなくなる事があります。
その際に引き出そうとして怪我をする事があります。

猫が食べてはいけないもの

果物

ブドウ・レーズン・プラム・プレーン・イチジク・パパイヤ
マンゴー・グレープフルーツなど

野菜

玉ねぎなどのネギ類

(刻み玉ねぎ、玉ねぎパウダー、ニンニクパウダー入りの肉団子や
スナック菓子も含む)・茄子・ほうれん草・ジャガイモ・トマト・
アボガド・ユリ根・筍・銀杏など

生の魚介類

海老、蟹などの甲殻類・イカ、タコ・貝類

青背の生魚(アジ・イワシ・サバ・サンマなど)

魚加工食品(人用のツナ缶・はんぺん・シラス・塩鮭・蒲鉾・いくらなど)

生の肉類

各種の生肉・肉加工食品(ハム・ソーセージ・ベーコンなど)

スパイス(胡椒・唐辛子・カレー・タバスコ・シナモンなど)

乳加工品(牛乳・バター・マーガリン・練乳など)

炭水化物加工品(パン・そばなど)

加工品・菓子・飲み物

ナッツ類・チョコレート・キシリトール含有物

緑茶・紅茶・コーヒー・お酒

植物類

ユリ科 (ユリ・チューリップ・ヒヤシンス・スズラン・ホトトギスなど)

ツツジ科 (ツツジ・サツキ・シャクナゲ・アザレアなど)

キンポウゲ科 (アネモネ・ラナンキュラス・クリスマスローズ・クレマチスなど)

バラ科 (モモ・ウメ・リンゴ・桜・ビワなどの種子・葉・熟していない実など)

食べても良いものに、火を通した肉や卵・ヤギミルク・ヨーグルト・バナナなどがありますが、基本的に**総合栄養食と表示されているキャットフード**を主食としているだけで栄養は充分です。猫は肉食動物であり植物由来の成分が犬より苦手です。繊維質の物にも注意が必要です。

避妊手術について

猫は通常 6 ヶ月齢～ 8 ヶ月齢頃頃 (体重が 2.4kg を超えた頃) から性成熟を迎え発情兆候を示しはじめます。太陽光だけでなく人工灯も発情に影響を与えるため、室内飼育の場合は季節にかかわらず発情を繰り返してしまうことも少なくありません。

Q1. 発情兆候とはどんなものでしょう？

生理が来ていないからまだ発情はしていない。と考えてしまわれる方がいます。

猫には発情に伴う陰部からの出血はありません。

- ロードシス**… 猫に特徴的なおしりを持ち上げる様子のことをいいます。特に腰のあたりをなでると顕著に表れる仕草です。
- 大きな声でなく**… 頭や首をやたらとこすりつける。
- ゴロンゴロン転がる**… 外に興味を示す。
- 活動的になる**… 食欲がなくなる。
- いつもと違うところでおしっこをしてしまう**

このような仕草が発情兆候です。

とくにこすりつけや転がる様子は、甘えている猫によくみられる行動とも一致するので、猫によってはよくわからないかもしれません。ただ、通常は発情していることはわかりやすく行動として表れ、近所迷惑なほど大きな声でないてしまう場合もあることから避妊手術を検討される場合が多いです。

Q2. 避妊手術のメリットは？

◎**乳腺癌、その他生殖器疾患の予防ができる**

手術のタイミングの違いによる予防効果が具体的な数値で示されており、6 ヶ月齢前で 91%、7～12 ヶ月齢で 86%、13～24 ヶ月齢で 11% 乳がんの発生率が低下すると報告されています。

◎**伴侶動物として、暮らしやすくなる**

発情中の行動には個体差がありますが、大変な子は本当に大変です。「あーおん」といった感じで一晩中大きな声でなきつづけてしまうこともあります。

トイレ以外の場所でのおしっこの後始末も、とても大変。

危険がいっぱいな外に出たがってしまうのも、困りものです。

何より気分のイライラがなくなり穏やかになることで伴侶動物として扱いやすくなることが多いです。

Q3. 避妊手術のデメリットは？

◎**手術に伴うリスクがあります。**

避妊手術は、吸入麻酔による全身麻酔下にて開腹し卵巣のみ摘出す術式で、手術時間は約 30 分となります。

やはり全身麻酔下での開腹手術で万が一のことがないとはいえません。

麻酔薬に対する特異体質的な過敏反応を起こす子もいて、死亡する確率はゼロではありません。

まれに体調不良が続く場合もあります。

◎**太りやすくなる**

避妊手術により生殖に費やすエネルギーがなくなるので、エネルギー要求量は 3 割ほど落ちます。

その反対に、性欲がなくなるぶん本能的に食欲は 2 割ほど増すといわれています。

避妊去勢後用のフードで対応できます。